「住総研 研究･実践選奨」受賞評

実践 No.1923　　主査　**矢野 拓洋**

土地公的活用領域図の作成と私有地の公的な活用の実践―福島県国見町貝田地区を対象として―

本実践研究は、ささやかでも「私有地を公的に活用すること」で、管理の行き届いていない土地を減らし集落の雰囲気を変えられることを、身をもって示している。空き家や空き地が増えるのは、人口が減少し、高齢化しているのだからしかたないと諦めるのはまだ早いと思い直させる力がある。一般に、現在の私有財産のしくみでは、土地の所有権をもっていれば他者に明白な迷惑にならず法に抵触しない限り、管理が疎かでもそっと持ち続けることは問題にならない。ヘラーのいうアンチコモンズの悲劇であり、その土地を活用できないことがエリア全体としてのイメージを下げてしまう。

本実践研究では、これを「所有意識が低下している」状況ととらえ、顔の見えるコミュニティ内の信頼関係があいまって、「独特の公と私が入り混じった中間領域」として実質的に活用されているところに着目した。それらを「公的に活用している私有地」ととらえ、「公的に活用できそうな私有地」を加えてマッピングし集落の人たちと共有している。そのうち、実際に耕作放棄地と住人のいない家の２ヶ所を、公的に開く実験を行い、「一度活用すれば住民の意識が変わる」手応えを得ている。使っている事実が薄い私有地について、所有問題を顕在化せずに、信頼を醸成しつつ、所有よりシェアを基盤に活用していくととらえるなら、「公-私」の構図を超えた新展開が期待できそうだ。以上の理由により、本論文を「研究･実践選奨」として選定した。

研究 No.1813　　**松本 直之**

昭和戦前期の建築構法・生産の変遷に関する産業史的研究―清水組工事竣功報告書を対象として―

本研究は、戦前の代表的な大規模建設会社である清水組〔現：清水建設株式会社〕による建設工事の内容を記した資料である『工事竣功報告書』を対象として、当時使用された構法や工事ごとの専門工事会社の編成等に関する分析、および、当時の統計資料や企業社史から示される産業的背景の考察により、昭和戦前期の建築構法・生産体制の変遷を明らかにしたものである。

分析対象となった建物は工場、事務所、学校などに加え、住宅や神社などもある。住宅の多くは木造であり、また、設計施工一貫方式が半数、特に住宅に関しては７割というのは、大工棟梁を出自とする清水組の特徴が良く現れたものであり興味深い。

材料や構法の分析からは、伝統構法を基盤としながらも材料調達の国際化や仕上の多様化、乾式工法やボードなどの工業材料、筋違やコンクリート基礎などの耐震要素の導入など建築技術の近代化の諸側面を垣間見ることができる。取引先に着目した分析においては、職種編成の特徴や新しい職種の発生、協力会（兼喜会）の及ぼした影響など、当時の建築生産組織のみならず専門工事業の成立過程、日本独自の総合建設業と専門工事業の関係などを知る上での貴重な知見が示された。

本研究により、工業化建材の国産化や RC 造、SRC 造の普及過程、戦時体制への移行と建設需要、構法の変化などが整理され、また、世界的にみても特異な発展を遂げてきた日本の総合建設業の成立段階をうかがい知る上でも貴重な知見が示された。引き続き、発注者や設計者に関する分析などがおこなわれることにより、さらなる発展が期待できる意義ある優れた内容を持つ研究として高く評価し、「研究・実践選奨」に選定した。

「住総研 研究･実践選奨 奨励賞」受賞評

研究 No.1918　　主査　野口 修

白樺派と近代日本の住宅建築―『我孫子コロニー』の白樺派作家に見られる住居観の影響関係―

千葉県我孫子市の手賀沼周辺につくられた白樺派同人の志賀直哉、武者小路実篤、柳宗悦の各住宅（あわせて「我孫子コロニー」と呼ばれた）について、その建物と地域に形成された歴史的環境を、歴史史料に基づき復元し、その結果を環境の保全継承活動につなげていこうとするものである。

最大の成果は、土地台帳や図面類等の歴史資料をもとに、その敷地と平面並びにその形態や立地環境の復原に取り組んでいることである。各住宅に関して記述された既往の文献等を調査し、その既述の根拠となっている史料を特定している。地道な作業であるが、歴史研究において欠かせないことであり、本研究の学術的な価値を高めている。その上で、それぞれの人物に関して、その生涯に建築した住宅の履歴についても研究を行っている。そうすることで、我孫子コロニーをはじめ、各人がつくった住宅について、近代住宅史上での位置付けを行い、あわせて、各人の各時代の住宅に関する観念（住居観）についても考察している。さらに、調査研究活動の成果を、各人の住宅跡並びに「我孫子コロニー」としての環境の保全継承に役立てられるよう、街歩きツアーの開催、復元イメージ図の作成、地域計画に結び付ける提案活動等の実践的な活動にも取り組んでいる。

以上の通り、復元的考察において学術的に確かな成果を上げていることに加え、成果を実践活動にも結び付ける意欲的な取り組みを行っていることを高く評価し、本論文を「研究･実践選奨 奨励賞」として選定した。